
第4章

**ARENAで
メールを受信する**

04-01

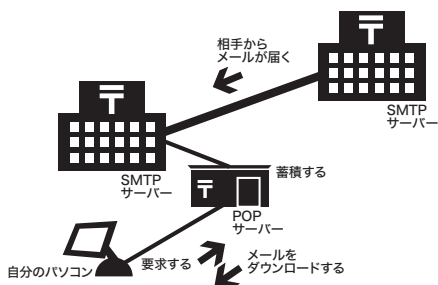
メールを受け取る

●メール受信のおさらい

「メールを受信する」とは、メールサーバーに蓄積された自分宛のメールを自分のコンピュータにダウンロードすることだ。

誰かから送られた自分宛のメールは、自分のPOPサーバー（プロバイダなどが設置している「メールを受け取るためのサーバー」）に蓄積される。メーラはこのPOPサーバーと交信をして、“まだ受け取っていないメール”をサーバーから自分のコンピュータに“持ってくる”動作を「受信」というわけだ。

図 04-01

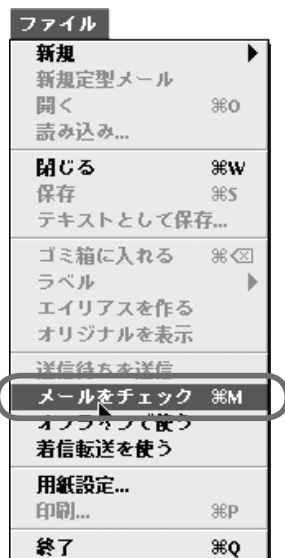


●メールを受け取る

ARENA でメールを手動で受信するためには、ツールバーの「受信」ボタンをクリックするか、「ファイル」メニューの「メールをチェック」を選ぶ。「メールをチェック」を選んだ場合は、受信動作とともに、未送信メールがあれば、それを送信する。



図 04-02
メールを受信するためには、
ツールバーの「受信」ボタ
ンをクリックするか



「ファイル」メニューの「メ
ールをチェック」を選ぶ

これらのボタンやメニューを選ばなくても、一定の条件で自動的に受信動作を行うこともできる。

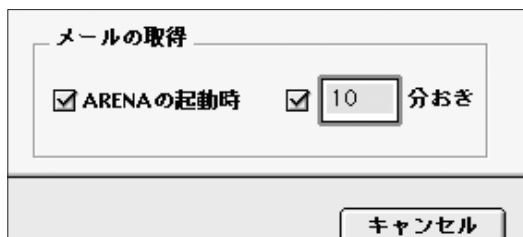
「編集」メニューの「環境設定」－「アカウント」の

「POP サーバー」パネルの「起動時にメール取得」のチェックボックスにチェックを入れると、ARENA を起動したときに自動的にメールの受信動作に入る。またその下の「メールを□分おきにチェック」にチェックを入れ、分数を指定することで、ARENA が起動している間は、一定間隔でメールの受信動作が繰り返される。

図 04-03
「ARENA の起動時」にチェックを入れておくと、ARENA 起動直後にメールをチェックする



図 04-04
これらの設定で、起動時や、ARENA 動作中の一定間隔でメールのチェックが可能になる



いずれの方法でも受信中には「送受信ウィンドウ」が開き、受信状態をプログレスバーで表示する。

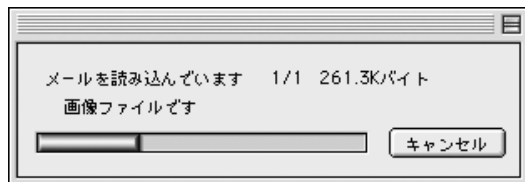


図 04-05
送受信動作中には、このようなプログレスバーが表示され、進捗状況を教えてくれる

●受信したメールはどこに？

ARENA の初期値では、受信したメールは「Inbox」というメールボックスに格納される。受信したメールで、まだ読んでいないものを「未読メール」というが、未読メールは、先頭に下向きの矢印アイコンがつく。

メールボックス内に、いくつかのメールが格納されており、そのうちのいくつかが未読だから、ウィンドウ下部に分数の形で表示される。

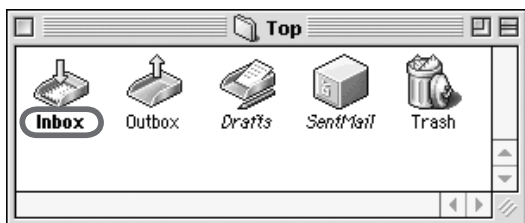


図 04-06
未読のメールには下向きの矢印アイコンが行頭につき、未読であることを示す。またウィンドウ左下には分数の形式で、そのメールボックス（フォルダ）内に格納されているメール数と、その内の未読メール数を表示する。この図の例では、全部で 16 通のメールが入っており、内、5 通が未読である

また未読メールが含まれているメールボックスやフォルダの名前は太字で表示される。

図 04-07

未読のメールが含まれるメールボックスやフォルダのタイトルは太字で表示される。この場合は「Inbox」に未読メールがあることを示す



メールソフトを使ううえで、もっとも大切な作業のひとつが、来たメールを効率よく読む、ということだろう。届いたメールを見逃してしまわないように、もれなく手早く読む、ということが基本中の基本になる。

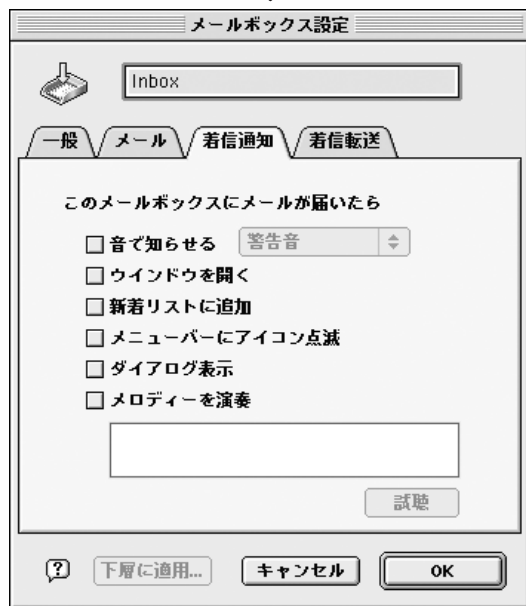
そのために ARENA にはいくつかの便利な機能を用意されている。メールが届いた時に、音を鳴らして注意を引く、とか、新着メールの行に色を付けるとか、新しく届いたメールだけを、ひとつのウィンドウにまとめて表示する、とかだ。

●メールが届いたら音を鳴らす

手動で受信動作を行っている場合は、来たメールに気が付かないということは少ないかもしれないが、一定間隔で自動的に受信するように設定している場合などは、メールの到着に気が付かないこともある。新しいメールが届いたら、なんらかの方法で注意を引くようにしておく、見落としがなくていい。

これはメールボックスごとに設定できる。メールボックスについては、まだ説明していない (146 ページ参照) ので、デフォルトで用意されている「Inbox」というメールボックスを使って説明しよう。「Inbox」を選択し (クリックする)、「メールボックス」メニューの「メールボックス設定」、「着信設定」パネルを選ぶ。

図 04-08



ARENA ではメールボックスごとにメール着信時の振舞いを変えることができる

ここの「音で知らせる」にチェックを入れ、プルダウンメニューの中から音の種類を選ぶことで、そのメー

ルボックスに新しいメールが届いたら、音が鳴るようにできる。一番下の「メロディを鳴らす」もよく似た機能だが、メロディを自分で記述できる点が異なる（247ページ参照）。

図 04-09

メールが着信した時に、指定したピーブ音が鳴る

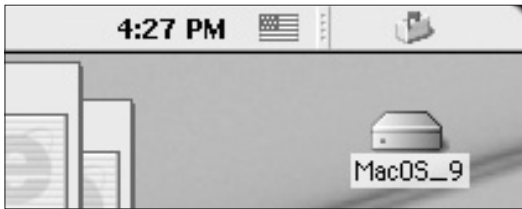


「ウインドウを開く」にチェックを入れておくと、新しいメールが届けば、そのメールボックスのウインドウが自動で開く。

「メニューバーにアイコン点滅」では画面左上のアプリケーションアイコンのところにもメールボックスのアイコンが点滅する。



図 04-10
アプリケーションアイコンに
このようなアイコンが点滅
する



「ダイアログ表示」だと、「メールボックス〜にメールが到着しました」というダイアログボックスが表示される。



図 04-11
メール到着を示すダイアロ
グが表示される

これらの機能は、もっぱら ARENA をバックグラウンドで動作させている時に効果を発揮する機能だ。つまりインターネットに常時接続しており、ワープロだとかの別の作業をしている場合にも、後ろで ARENA を動かしておき、何分おきにメールをチェックするという設定にしている場合。

別の作業をしていても、メールが到着した瞬間に、

あの手この手で注意を引いてくれる。来たメールはできるだけ早く読みたいという場合には、非常に効果的だ。

また他のソフトと比較して、ARENAのこの機能が優れているのは、これらの設定をメールボックス単位で行える、ということだ。後述するが、メール受信時に、さまざまな条件でメールをいろいろなメールボックスに分類して格納できる。たとえば、特定の人から来るメールだけがあるメールボックスに、というようなことができるわけだ。そのメールボックスに対して、先に述べたような設定をしておくことで、その人からメールが到着した場合だけに、特別の何かを起させることができる。メーリングリストやジャンクメールはとりたてて早く読むことはないけど、仕事上で重要なメールはできるだけその時その時で処理しておきたいという場合に便利だ。

●新着メールウインドウ

来たメールはその時その時で全部読む、というのが基本であるかもしれない。つまり、ARENAを終了する時には、未読メールが0の状態にしておくということ。これはいちばんすっきりした運用方法だ。

しかし、現実には忙しい時もあれば、時間のない日もある。未読メールのうちのいくつかは、後で読むために未読のまま残しておくことも多いだろう。未読をクリックして既読に変えてしまうと、どのメールがまだ読んでないかが判別できなくなるからだ。

しかし、いつもいつも未読のメールがたくさん残っているという状態になると、大切なメールが新規で到着した時に、多数の未読に紛れて、見落としてしまうことがある。メールボックス内での表示の順番については後述するが、初期値ではメールは発信の日付順で並ぶようになっている。メールの発信日付が新しいものほど、上に来るようになっている。

この「メールの発信日付」はメールを送った人のパソコンの設定がそのまま反映される。コンピュータの内蔵時計の日付を変えれば、未来の日付で発信されたメールを作ることだってできる。意図的にパソコンの日付をへんな設定にする人はいないかもしれないが、故障やミスのために日付が間違っただけで設定されたままのパソコンを使っている人は意外に多い。未来の方向に間違っている場合はまだしも、過去（それもすっごく過去）に間違っている場合は、新着のメールが発信日付順にならべたウィンドウの最も下の行に表示されることになる（相手のコンピュータに内蔵されている電池が切れたり、PRAMの内容が飛んだりした際にはこうなる。けっこう頻発する現象だ）。

メールボックス内に、未読のメールがたくさん溜まっていると、それらに紛れて、この一番下のメールを見逃してしまうことがある。

そういう状況ではなくても、未読メールが残っている状態だと、それらの以前に来た未読メールと、たった今到着した未読メールを区別したくなる。

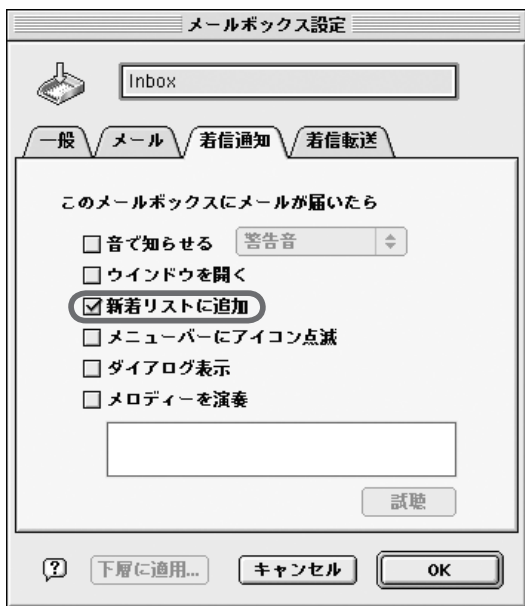
そこで便利なのが「新着メールリスト」の機能だ。

「メールボックス設定」の「着信設定」パネルで「新着リストに追加」にチェックを入れておくと、そのメールボックスに新しく届いたメールのエイリアス（のようなもの）が「新着リスト」というウィンドウの中に表示される。着信の振り分け（164ページ）で、複数のメールボックスに振り分けてメールを格納するようしていたり、未読メールを残しがちな人には便利な機能だ。

着信した新しいメールはこの「新着メール」ウィンドウに表示される。と、同時に「Inbox」などの正規のメールボックスにも同時に格納される。「新着メール」ウィンドウでそのメールを読むと、本体のメールボックスの中にある同メールも既読になる。「新着メール」ウィンドウでメールを削除すると、本体のメールボックスの中のメールも削除される。だから、ここで「今来た」

04 - A R E N A でメールを受信する

図 04-13
「新着リストに追加」に
チェックを入れておくと、



新着メールがまとめて表示
される「新着メール」ウイ
ンドウ。今来たメールだけ
がまとめて表示されるの
で、便利



メールをまとめて読んでしまうことができる。

「新着メールウインドウ」はこのウインドウを閉じるか、ARENAを終了させると中身が消える。つまり毎回新しいメールだけが表示されるシカケになっているのだ。

●メールをサーバーに残すとは

先に、メールを受信するとは、POPサーバーに保存されているメールデータをこちらのコンピュータにダウンロードすることだ、と書いた。では、メール受信後は、このPOPサーバーにあったメールデータはどうなるか。

原則として、このメールのデータは、受信後もまだPOPサーバーの中に残っていて消えることがない。ではどうして次に接続した時に、前回受信したデータをふたたび持ってこないかという、メールソフト側（この場合はARENA）が、“このメールは受信済み”ということを知っているからだ。メーラの機能として、一度受信したメールは、再度受信することはない、となっているわけだ。

メールを受信しても、POPサーバー側にそのメールデータが残ったままになっているのなら、いつか、きっとサーバーは溢れることになる。POPサーバーでは、各ユーザのメールデータを格納するスペースの上限を設けている。したがって、溜まりに溜まったメールデータがその上限を超えると、それ以上のメールが受け取れなくなる。

それを避けるために、プロバイダ（より正確にはPOPサーバーの運営者）側で、たとえば1月以上前からあるメールデータを削除するとか、一杯になったら、古いものから順に削除するとかという対策を講じているところもある（対策を講じていないところもある）。

POPサーバー側が対策を講じていようと、講じてまいと、POPサーバーに残るメールは、われわれひとりひとりのユーザが、きちんと自主的に削除し、あふれ

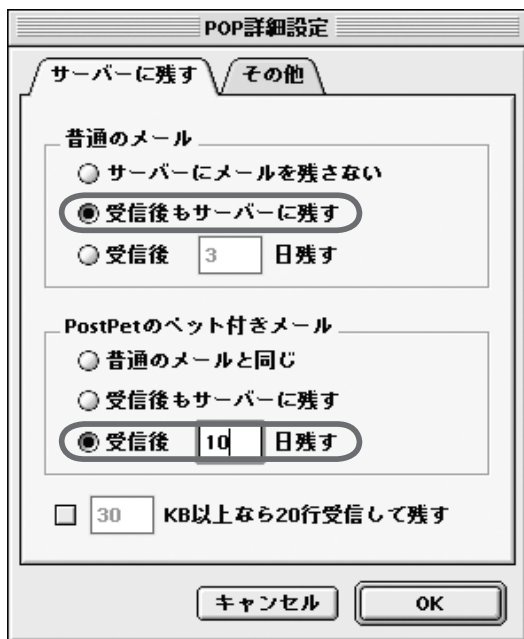
04-02

POPサーバーを管理する

04 - A R E N A でメールを受信する

図 04-15

一度ダウンロードしたメールのデータをサーバーに残すか、残さないかの設定ができる



たりしないように維持するのが、本来のルールだ。

ARENA にも POP サーバー内に残ったメールアドレスを削除する機能がある。「環境設定」のツールバーから「アカウント」を選び、その「POP サーバー」パネルの「詳細設定」ボタンをクリックすると、下の図のようなウィンドウが表示される。ここのラジオボタンで「サーバーにメールを残さない」（初期値）を選ぶと、受信したメールアドレスは受信後にサーバーから削除される。

「受信後もサーバーに残す」にすると、文字通り、受信後もサーバー内にはそのメールのデータが残される。「サーバーに□日間残す」を選び日数を指示することで、その期限までメールアドレスを残すようにできる。

ではいったいどういう場合にサーバーに残し、どういう場合にサーバーに残さないようにするのだろうか。

考え方の原則は、サーバーが溢れないように適宜削除する、というものだ。という点からは「サーバーにメールを残さない」にするのが最もよいように思える。しかし、たとえば会社と自宅の両方でメールチェックを行っているような場合、いっばうで削除してしまうと、もういっばうでそれをダウンロードすることができなくなる。また受信時になんらかのマシントラブルが発生した場合、読んでいないのに二度と受信できなくなるという危険性もある。

自分の状況や目的などを考えて、設定するようにしたい。

なお、この「サーバーに残す」機能は、通常のメールとは別に PostPet 付きのメールに対してだけの設定を行うことができる。これは PostPet メールは専用のメーラーで受け取ることが前提になっているからで、PostPet を使っていない場合は、「通常のメールと同じ」に設定しておくといだろう。

PostPet とはソニーコミュニケーションネットワークの「インターネット愛玩メールソフト」で、PostPet

同士でメールのやりとりを行うと、クマなどのキャラクターが相互に訪問しあうというなんだかワケのわかんないソフトのことだ。PostPet のメールにはバイナリファイルが添付ファイルとしてくっついてくる（これがキャラクターの正体）。これはもちろん受信したメールソフトが PostPet でないと意味をなさないファイルだ。そこで、上記の設定があるわけだ。PostPet を使っている人は、ARENA 側で削除してしまうと PostPet で読むことができない。

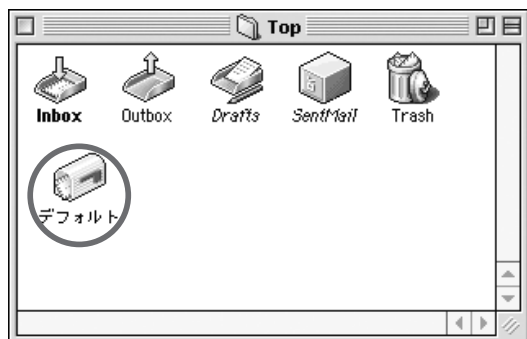
つまり上記設定は PostPet を使っていない人には意味をもたない設定である。

● POP サーバーをマウントする

ARENA ではダウンロードしないでも、POP サーバーにあるメールデータを取り扱うことができる。「編集」メニューの「環境設定」－「アカウント」の「POP サーバー」タブの左下にある「Top にマウント」のチェックボックスをチェックすると Top ウィンドウに、図のような（初期値）アイコンが表示される。

図 04-17
「Top にマウント」のチェックボックスにチェックを入れると





Top ウィンドウにこのようなアイコンが現われる

このアイコンをダブルクリックすると、パスワードが送信され、下図のようなウィンドウが表示される。つまりこのウィンドウのリストに含まれているメールのデータが、現在、POP サーバに格納されているものなのだ。



図 04-19
POP サーバアイコンをダブルクリックすることで、POP サーバの中にあるメールのリストを見ることができる

普通のメールボックスのツールバーと違うことがわかる。この中で使うことができるのは「選択受信」(行

を選択すると表示される)、「Top」、「削除」の3つだけだ。

メールを選択して「選択受信」ボタンをクリックすると、そのメールを受信(ダウンロード)することができる。前節で書いた「サーバーに残す」の設定を行っている場合はサーバーの中には、当然すでに受信したメールのデータも残っているが、そうしたものでも、この方法で、ふたたび受信することができる。

また、メールを選択して「削除」ボタンをクリックすることで、そのメールをPOPサーバーから削除することができる。もちろんまだ受信していないものでも、受信することなく削除されてしまう。

この機能はどのような時に使うのか。

まず、“POPサーバーの管理を手動で行いたい”場合。「サーバーに残す」設定にしておき、不要メールをこの方法で削除していくことで、サーバーが常に溢れないように管理していくわけだ。面倒だが、重要メールについてはPOPサーバーに“控え”が残る。

“大量のジャンクメールをダウンロードせずに削除したい”というケースにも有効だ。また、受信中に停電などのトラブルがあったり、受信したメールを間違っただけで削除してしまったりしたときにも便利。ただし、そのためには「サーバーに残す」設定をしておかなければならないが。個人的なことを言えば、そうした“起こるかもしれない”トラブルに備えて、ぼくは「サーバーに3日間残す」の設定にしている。

●HTMLメールについて

ARENAではHTML形式のメールの送信はできない仕様になっており、受信もまた、ARENA内部ではなくWebブラウザを介して表示するシクミを採用している。これはひとつの見識だと評価したい。HTMLメールを表示できるメーラーは多いが、その多くが中途半端な再現しかできない。考えてみたらそりゃそうで、HTMLの表現は多彩であり、かつ進化の著しい

ものだから、メーラーではなかなかそのすべてをブラウザなみに再現することは困難だろう（ブラウザだってまともに表示できないものが多いのだから）。ARENA は「だったら HTML メールは Web ブラウザで見ればいいじゃん」という戦略を採用したわけだ。

HTML を送信しなければならないニーズが少ないということだけではなく、えてしてトラブルの原因にもつながる。だから HTML メールを送信ができないことに、不自由を感じる人は少ないだろう。

受信にしても、送られてくる HTML メールのはほとんどは、Outlook Express などのメールソフトでデフォルト値（がなんと HTML メールになっている）のまま送信してきたもので、中身は単純なプレーンテキストである。これは別に HTML として処理する必要がないものだ。しかし、中にはどうしても HTML として見ないと内容が伝わらないメールもある。個人的な経験では、海外から来る宣伝などのメールに多いようだ（図 04-16 の例もそれを使っている）。

着信した HTML メールは、ARENA の中では図の

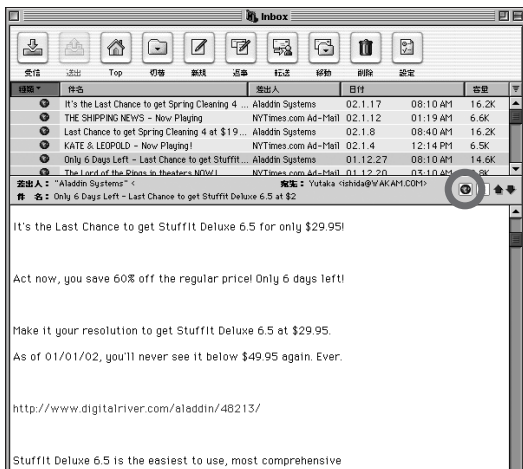


図 04-16

HTML メールはプレーンテキストだけが表示される。「地球儀」アイコンをクリックすると……

ようにそのプレーンテキスト部だけが表示される。ここでメールの右上についている地球儀のアイコンをクリックすると、ブラウザ（インターネット設定で決めた標準ブラウザ）が起動して、そのブラウザでHTMLとして表示される。図04-17のような例の場合、プレーンのテキストだけじゃ、内容は判断できないね。

図04-17
ブラウザが起動して、それをHTMLファイルとして表示してくれる

